JICA 教師研修　学習指導案・授業実践報告書

【実践者】

氏名	太田　進	学校名	(東京都)・道・府・県立 広尾高等 学校
担当教科等	外国語（英語）	対象学年（人数）	１年　Ｄ組（３９名）
実践年月日もしくは期間（時数）		４年　９月　　～５年　３月（１２～１４時間）	

【実践概要】

1. 実践する教科・領域：外国語（英語）英語コミュニケーションⅠ、論理表現Ⅰ、国際理解教育

2. 単元(活動)名：What’s on earth Intercultural communication?

2. 授業テーマ（タイトル）と単元目標

授業テーマ：「 SDGs in English -Sustainable cities&Food loss- 」

単元目標：ＡＬＴと持続可能な都市(まち)について考える

関連する学習指導要領上の目標：英語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う。

4. 単元の評価規準	①知識及び技能	SDGs の視点から日本と世界の現状、異文化コミュニケーションと多文化共生の課題について知り、理解を深めることができる。
	②思考力、判断力、表現力等	SDGs の視点から日本と世界の現状、異文化コミュニケーションと多文化共生の課題について意見交流によって思考を深め、自身の意見を英語で表現することができる。
	③学びに向かう力、人間性等	教材や様々な外部講師とのワークショップや意見交流から、日本と世界の国々の現状、異文化コミュニケーションと多文化共生の課題について意欲的に知識を深めようとしている。

5. 単元設定の理由・単元の意義 （児童／生徒観、教材観、指導観）	【単元設定の理由】 2015 年に国連で採択された「持続可能な開発目標(SDGs)」への理解を通じ、日本国内外にわたる開発、環境、教育等の諸問題への関心を深め SDDGs の視点でとらえ直し、自分の意見を考えることが今後グローバル化が加速する社会の中で不可欠であるため。 【単元の意義】 英語を学ぶ、また習得を目指す上で外国人とのコミュニケーションは不可欠である。彼らが持つ様々な文化や背景、それの充実に向けた現状や課題を理解することに大きな意義があると考える。 【児童／生徒観】 本校は都内の中心地に立地し第一志望で入学してくる生徒が多数を占めることから、学習だけではなく部活動などの特別活動に意欲的な生徒が多い。また海外への渡航経験も豊富な生徒が少なくないことから総じて外国人との異文化交流への関心も高く、英語習得やコミュニケーション能力の向上に意識を高く持つ生徒が多い。 【指導観】 今回のSDGｓ研修や教師海外研修をはじめとした様々な研修で得た資料や情報、開発教育の手法を効果的に活用しつつ、世界と日本の現状と課題に関して知識と理解を深めさせたい。また、SDGｓ達成の担い手として、自ら考え意見を表現できる能力を育んでいきたい。

6. 単元計画（全１３時間）

	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1	外国人との交流について	周囲の外国人との交流をふり返り、異文化交流について考える	・夏休みの出来事について Q&A ・外国人についての Brainstorming ・異文化交流についてのペアワーク	Ppt ワークシート
2 ～ 9	異文化交流と偏見について	漫画(サトコとナダ)原作の日本人とムスリムの女性の物語を通じ異文化交流について思考を深める	・本文内容理解 （True or False, Q&A, word scanning など） ・ Sight translation, write your opinion	教科書(デジタル含む) ワークシート
10	英語コミュニケーションの課題について	日本に長年在住のＡＬＴと日本の英語コミュニケーションの課題について考える	・グループディスカッション ・プレゼンテーション	・EPI,PISA の資料、英語コミュニケーション課題例（ALT 作成）
11 本時	Sustainable cities	ＡＬＴと持続可能な都市(まち)について考える	・Brainstorming ・グループディスカッション ・プレゼンテーション	c
12	イスラム社会について	オンラインセミナーを通じてイスラム社会について理解を深める	・ペアワーク ・グループワーク	ヨルダン在住の日本人元教員がゲストティーチャー
13	震災と防災	東日本大震災をふり返り、自身と周囲の安全保障について考える	・フォトランゲージ ・グループディスカッション	震災時の画像 震災遺構荒浜小についての動画
14		ＡＬＴと日本のフードロス/コロナ対策について考える	Brainstorming ・グループディスカッション ・プレゼンテーション	フードロスとその実例（ALT 作成）

7. 本時の展開（　11 時間目）

本時のねらい：日本に長年在住の ALT が指摘すると SDG s の日本の課題（持続可能なまちづくり）について考える

過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動 ・指導形態	指導上の留意点 （支援）	資料（教材）
導入 (8 分)	・ Brainstorming (What's SDGs?) ・海外の様々な SDGs モデル都市の紹介 都市名と特徴の書いたカードを使ってマッチング活動（コペンハーゲン、クリチバなど）	ALT からの instructions の理解度確認	・PPt,ワークシート
展開 (30 分)	・日本のモデル都市（横浜、名古屋など）と東京 23 区内（豊島、板橋など）の紹介		・PPt,ワークシート

	・Tokyo is sustainable? (グループワーク) 東京の利点と改善点を考える ・各グループ代表に意見を英語で発表してもらう	進行状況を見ながら必要なグループを支援 英語表現の支援	
まとめ (2 分)	・reflection　本時の学びをふり返る ・便利さが幸福感と比例しないことを考える		・ワークシート

8. 評価規準に基づく本時の評価方法　発表、ワークシート
9. 学習方法及び外部との連携　・ペアワークやグループディスカッションなども取り入れ、生徒相互の学びや気づきを促し、思考を深め、学びを促進させる。 ・前任校 ALT とのチームティーチングや海外在住元協力隊員との連携など
10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組 担当学年内での学期 1 度の国際理解教育に関するセミナーの開催、学年掲示版でのポスターセッション、classi を活用しての配信など。

【自己評価】

11. 苦労した点	・実践カリキュラムの構築、通常の授業との調整 ・臨時時間割の中での ALT とのスケジュール調整など
12. 改善点	・東京という括りから自身が住む自治体に落とし込んで考えを深めていけるようにすること。 ・またそれに関する英語の表現力を高めていくこと。
13. 成果が出た点	・SDGs の中でも比較的認知度の高くない No.11 について、東京と世界のモデル都市について比較し、自身が住む都市の利点と改善点について考えを深めることができたこと。
14. 学びの軌跡（児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど）	・英語で考えることでより国際的な問題だと考えられた。 ・SDG s は考えるだけでなく私たちが行動に移すことが重要だと思った。 ・便利さを追求することは環境を傷つけてしまうことがあると思った。 ・SDGS を身近な東京の中で考えたことがなかった、グループ活動で新しい発見があった。 ・SDGS を様々な視点から考えることができた。 ・東京は便利であるがそれが環境に良いとは限らない。 ・街中の SDGS を探してみようと思った・SGDs に貢献しようと思った。
15. 授業者による自由記述	ALT の協力も再度得られ、継続して三学期にも TT で実施予定。SDG s の視点を磨きつつ国内外の様々な課題について考える機会を提供していきたい。また 3 年間を通じた学習としてカリキュラムを構築していきたい。 (協働授業実践者　ALT・Alan Stewart　より) Over two days, the 7th and 8th December, we did a total of seven lessons between five different homeroom classes of about forty students each. The idea was that the classes should be interactive and based on the students' giving their opinions.

	The first topic was to think about some problems with English communication in Japan. We put up nine different ideas on the blackboard. These ideas were a combination of opinions gathered from the Internet and our own. The opinions gathered from the Internet were from mostly Japanese adults who had studied English as part of the Japanese education system. Examples of the ideas introduced included 'There is too much katakana English' or 'People don't like to give their opinions in Japan' or 'English is not needed in Japan'. We explained the ideas and the students were divided into groups of about four people and asked to discuss the ideas in Japanese or English and to pick up ones they agreed or disagreed with. They could also give their own opinions if they wanted to. Within ten minutes we stopped the students and we picked some of the groups and one member introduced the main idea from the groups picked in English. Opinions differed between each class and it did seem the students were thinking for themselves. It was interesting to get the students' opinions and the feeling towards English as being an important subject differed a lot. The second lesson which we did with two homeroom classes was about the 11th SDG Goal – Sustainable Cities. The reason we picked this one was because Hiro is at the centre of the biggest city in the world and the students live in different parts of that city. Also being the first SDG topic we introduced it seemed it would be not as controversial as some of the other goals. Twelve sustainable cities from around the world were introduced. The lessons were supposed to be interactive, so to involve the students the cities and their good points regarding sustainability were separated and the name of each city and its good point were given to different students in the class and they found the matching city and point through colour coding and put these points on the blackboard. Examples of the cities included Accra in Ghana – 74% of energy comes from hydropower or Portland in the US – all plastic bags are banned. As with the previous English problems lessons, the students were divided into groups and after having thought about and discussed the question some of them were asked to introduce their answers to the rest of the class. The question was 'What sustainable things do you notice in Tokyo?' It was a little difficult for the students to give clear examples so we asked the students what they liked or didn't like about Tokyo if they couldn't think of a clear answer. The main purpose of the lessons over the two days was to introduce some ideas to the students and give them a chance to discuss them and express their ideas in English. The lessons were supposed to be student centered. The Hiro students were a friendly, well-mannered group of students and we hope they benefited from the classes.

使用した教科書・単元名：New Rays English Communication I Chapter5 Satoko and Nada
参考資料：総合的な学習(探究)の時間のアイデア集　独立行政法人　国際協力機構　東京センター

※ 過去の本研修参加教員による実践事例と使用教材、ワークシートなどを
JICA ホームページに掲載しています。　是非ご覧ください！
https://www.jica.go.jp/tokyo/enterprise/kaihatsu/kaigaikenshu/index.html